

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4392700235
法人名	社会福祉法人 小国町社会福祉協議会
事業所名	グループホームなごみ (花ユニット)
所在地	熊本県阿蘇郡小国町宮原425-8
自己評価作成日	令和6年1月25日
評価結果市町村受理日	令和6年4月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/43
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205
訪問調査日	令和6年3月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気です利用者様が落ち着いて過ごす事が出来ゆっくりとした時間が流れている。利用者様の状況にスタッフが合わせ出来ないところを補い必要以上のケアを行わず、ご利用者様の残存能力に合わせたケアの提供を行うよう心掛けています。小国郷の地域密着型施設なので利用者様、ご家族、スタッフと顔見知りの事が多く話しやすい関係が出来ている。普段から職員も積極的に話しかけ信頼関係を築きご家族のいろいろな思いや不安など聞くことが出来ている。不安に対しては早期に解決できるように心がけ「なごみ」に入所できて良かったと思っていただけるよう努力しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

静かな山里に建つホームはコロナ感染症の5類移行後も終息に繋がるものではないとして、入居者・家族等の面会も窓越しや衝立で仕切るなどリスク回避に努めている。本年度は“理念”と“心得”の見直しを行い、入居者主体の支援を基本として職員意見を反映したものを新年度の節目を前に作成したいとしている。ホームでは家族との交流が難しい時だからこそ、入居者の状況を写真や文章で毎月伝え、ユニットごとに顔写真で職員紹介を行う等、家族に安心してもらうように工夫している。かかりつけ医である公立病院(サテライト)がホームの身近に新設されたことで、日常の訪問診療もスムーズであり、何かあれば直ぐに駆け付けてもらう等入居者の医療支援に安心感が生まれている。新年度には初めての試みとして法人全体で外国人技能実習生の雇用を決めており、職員は実習生を迎えるにあたり、事業所内の文字表示をわかりやすいひらがな表記にして、徐々に生活に慣れてもらい、ここで育てて欲しいとしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ユニットでリーダーを選出し理念の見直しを図っている。簡潔にわかりやすくすることで理念の共有が図れる様にしたい。	“理念及び心得”の見直しを検討しているところであり、職員にはアイディアを出してもらい、本年度中には新しい理念、心得のもとスタートしたいとしている。また、入居者本位であることが重要であるとして自己決定や、心得も簡素化したわかりやすいものにしたいとの意向である。	新たな理念が職員の中に浸透し、入居者主体のケアの実践に期待するとともに、家族や運営推進会議などで地域へ向けても報告されることが望まれる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナが5類に移行しているが利用者様が高齢でもあるため催しものには参加出来ていない。今後の状況を見ながら検討していきたい。	コロナ感染症の5類移行後も地域との直接的な交流は控えており、入居者が地域の人々と交流する機会は少なかったようである。管理者がキャラバンメイトとして小・中学校生に認知症の啓発活動に出向き交流を図っている。他科受診や検査などの医療支援の際は職員が対応し、地域や遠方の医療機関に足を運び、入居者が地域へ出る機会としている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	キャラバンメイトとして活動しており今年度は小中学校での養成講座開催に参加した。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設の取り組みや動きについて報告する他、施設としての課題なども議題に取り上げサービスの向上に活かせるよう心掛けた。参加のないご家族への報告が出来るよう今後はしたいと思います。	本年度は開催が難しかった7月を除き対面での直接開催が出来ている。初回の会議では運営推進会議の意義や、食材費などの料金の変更について運営規定の内容を一部改定した件を説明している。コロナ感染症の5類移行後も感染者が減少したとはいえまだまだリスクは高く、ホームでの面会も窓越しや衝立越しであることを伝えている。ヒヤリハットの説明や身体拘束については該当事例の有無を報告して、参加者からの意見を収集している。	改定した書類等については玄関i内に掲示して、来訪者へも紹介している。会議の中で参加できなかった家族への報告を今後はしていきたいとしており、取組が期待される。また、身体拘束についてはホームでの状況報告としているが、適正化委員会での研修内容などを報告することで参加者の安心にも繋がるものと思われる。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議への参加依頼や、いろんな情報についてメール等で知らせて頂いている。話しやすい関係を作っている。	運営推進会議には行政担当者が参加しており、ホームの現状を共有して、感染症の状況や研修案内などをメールでやり取りしている。認定調査は居室で対応し、まずは調査員に入居者と面談してもらい、その後職員が立ち会い入居者の近況を伝えながら普段の姿を見てもらうようにしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化委員会を中心に身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいます。センサーマットについても都度話し合いを行っている。今後は高齢福祉課でまとまった研修会が出来るよう話し合いをする予定になっている。	身体拘束適正化委員会を設置している。管理者が法人研修に参加して職員と共有しているが、ホームではなかなか研修の機会がなかったとしている。言葉による行動の制止やテレビ報道などから話し合い、他所の出来事と捉えず自分自身が十分注意を払うように自己点検の場としている。数種のセンサーを使用しており、利点や弊害、継続の有無などを評価しながら利用している。	法人研修には他の職員も参加する機会があれば考える。また、人員体制から夜勤の出来る職員に限りがあり、ひとりの職員の夜勤回数などは新年度の課題として法人と協議されることが望まれる。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止に関してもユニットリーダー・身体拘束委員会のメンバーと共同で毎月のケア会議の際話し合いや行動、言動の振り返りを行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	県が定める施設長等権利擁護推進研修へ参加、また熊本県地域密着型サービス連絡会阿蘇ブロック開催の権利擁護研修会に2名参加し少しでも理解できる様に努めた。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、または改定等の際は料金体系や加算の内容について文章や口頭で説明している。負担が生じる際も事前に説明し不安や疑問点についてを行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議での家族代表より意見を頂戴したり、面会の際意見や要望を聞くようにしている。年明けには職員紹介のなごみ新聞を作成しご家族との顔の見える関係の構築を図っている。	家族が運営推進会議に参加した折や面会時に意見や要望を聞くようにしているが、意見などは少ないようである。介護プランの説明時には入居者の状況を伝えながら、再度尋ねるようにしている。入居者も自ら言われる方は少なく、声掛けしながら要望を引き出すようにしている。中には昼食後などに「昼からはなんばすつと〜？」と職員に質問される方もおられようである。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回程度、高齢福祉課(4施設)の管理者と経営コンサルタントを交えて、運営状況や問題点等を確認し合い経営改善のための情報収集経理を行っている。	職員は日頃の気づきや要望を伝えており、月の会議では入居者のケアについて共有するとともに、出された意見や要望を検討している。経年により使いづらくなった掃除機購入にも職員意見が反映されている。職員の希望休、有休は調整をしながら休んでもらうようにしており、新年度には新たに特定技能実習生の受け入れが決定している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の人事評価と必要な場合は面談を行い管理者や職員個々の勤務状況や職場環境、メンタル面の把握を行い各自が働きやすい環境になるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ケア会議等に参加し、意見を聞くことにより職員の力量等を把握する事が出来る。又、年間計画で法人全体で実施している研修会に参加し、スキルアップを図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	小国郷医療福祉あんしんネットワークによる小国郷の同業者と意見交換等を行いサービスの質の向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所の際に不安なことはないかコミュニケーションを図りながら解決できるように努めている。また、ご家族からの情報を聞き入れる事で自分で訴える事が出来ない方の不安や要望を聞き入れ安心の確保に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談時から家族の立場に達って接するように心がけ、家族の思いを十分に聞き要望を伝えやすい関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所時に本人や家族の要望を聴き必要としている支援について担当者・ケアマネ・ユニット職員で情報を共有しサービスの提供を行っている。また、ケア会議でサービスが充足しているか検討を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の個々の能力が発揮できるように洗濯物を干したり畳んだり、レクリエーション活動と一緒に楽しみながら生活できるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会制限が続く中ご家族の希望があれば面会でいる様に対応しています。病院受診の際の付き添いもご家族が同行されることもあり支える関係づくりが出来ている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの美容室にお連れし関係が継続できるように努めています。	現在家族との帰省や外出には法人に相談して支援している。家族には担当職員が毎月写真付きで入居者の状況を伝えており、入居者との1対1の関係作りに努めながら、家族との関係性が薄れないようにしている。これまで続けてきた洗濯物干しやたたみなどに参加してもらい、慣れ親しんだ作業に喜ばれている。冬場の湯たんぽは開設時より利用しており、ホームの名物となって愛用されている。	感染症対策の中では思うように入居者の希望に応えられなかったとして、次年度は楽しい取り組みを考えたいとしている。まずは居室での直接面会など入居者・家族の思いが支援に反映されることが期待される。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや催事を通してお互いが興味を持ってもらえるように声かけを行ったり、孤立しないようにスタッフが常に見守り声かけを行っています。トラブル回避のためスタッフが介入し関係性を保てる様に努めています。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの利用が終了した後も、相談や支援に応じる姿勢を示しながら経過を見ています。必要に応じてお尋ねする事もあります。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	積極的にコミュニケーションを図り思いを伝えやすい環境を作りご本人の思いや暮らし方の意向を把握するように努めています。思いを伝えられない方は担当者やケアマネを中心に昔の生活環境やなごみでの生活の状況を見ながら話し合いを行っている。	職員は日々の入居者との関わりの中から思いを引き出すようにしている。入居者の中には自ら言われる方もおられるが、そうでない方には職員から声を掛け、選択肢などを投げかけながら入居者の言葉を待つようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族との関係を維持し利用者の生活歴や暮らし方などわからない事を聞き取れる様にしています。前ケアマネや利用していたサービス事業所からも情報を収集出来る様に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の健康チェックを行うことで状態の観察をし、現状の把握に努めたり、常にスタッフ間で情報の共有が出来るよう申し送りの際も話し合い把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネが担当者やケアスタッフ全員と課題やケアのあり方について話し合い意見交換を行っている。ご家族からの思いも聴き介護計画に反映できるよう努めている。	本人・家族の意向を中心に入居前の生活からアセスメントし、必要な内容をプランにあげている。新しい環境で不安なく暮らしたいとする入居者の意向には、安心してホーム生活を送るための支援を掲げている。認知症の進行防止や心身機能の維持を掲げ、趣味の活動や他者との交流を通じて前向きに生活する事や健康観察、自身の役割の継続をあげている。入居1か月後には新たなプランとし、担当者会議では更に家族の意向を確認している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常生活の状況や催事での行動・表現の記録を行い、普段と違う行動や表情が見られた時は記録に残すと共に申し送りやノートを活用し情報の共有を図っている。介護計画の見直しにも役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	新型コロナウイルスが5類感染症へ移行したが自由が利かない状況は変わらない。その時のニーズに対応できるよう支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナウイルスが5類感染症へ移行したが施設内ではいまだに厳しい状況であり地域資源との協働は出来なかった。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医だけでなく、ご家族と相談し状態に応じ、ご本人やご家族の希望の医師による医療を受けるなど選択が出来るよう支援している。	現在、町の公的医療機関（サテライト診療所も2名あり）をかかりつけ医とし、個々に応じ1か月や2ヶ月に1度の受診を支援している。専門医の受診も職員による受診対応が行われている。結果はその都度家族へ報告し、気になる点など相談を受けている。食後は歯磨きへの声掛けを行い必要な介助と義歯の消毒も定期的実施している。また、歯科は希望者に必要な治療や口腔ケアが行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常に職場内の看護師と利用者の健康について意見交換を行っている。週1回の訪問看護には利用者の日々の状況を報告し必要に応じて相談も行っている。臨時での通院の際スムーズに受診できる様支援してもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	訪問看護を通して入院中の利用者の状況を把握したり、地域連携室のSWと連絡をとり退院の状況等の把握に努めている。主治医との関係も出来つつあ早期に退院できる様相談を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重症化や終末期のあり方については現在事業所で出来る事をその都度ご家族に説明を行っています。また、「急変時の医療行為の希望」を再度ご家族へ確認しご家族の意向の把握を行いました。	現在はホームに出来得るところまで支援する事を入居時に家族へ伝え理解を得ている。昨年10月に前法人体制からの入居者、家族の要望で看取り支援が行われているが、継続した医療支援の必要もない、自然な形で最終であったようである、	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時の対応はマニュアルを作成し周知出来ているが、不安を感じる職員もいる為、その都度対応する必要がある。日々の申し送りの際など話し合いを行うこともある。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を年2回実施し今年度は夜間を想定した避難訓練を実施し消防隊や消防団員の方からの意見を聞いたりスタッフから感想を出してもらいまとめ直ぐに改善できる部分は改善を行いました。	昼・夜を想定した避難訓練を消防隊や消防団の参加協力を得ながら実施している。訓練後に入居者が避難した後の確認の必要性について指摘を受けている。対策として居室入口のネームプレート裏に「避難すみ」を記入し、確認後裏返すことを決定している。また、避難経路に妨げになるものを置かないなどのアドバイスを受けている。火災は火を出さない事が一番であり、日頃の安全チェックに努めている。災害時の備蓄はリストをもとに確保しており、地震が来た際の職員が行う対応については、文書化し事務所に掲示されている。	BOPについて法人で作成がされており、今後は職員間での共有が期待される。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねないような声かけを行うように努めている。入浴は同性対応を行うこともある。	一人ひとりの入居者を尊重した支援を職員間で共有している。呼称は苗字を基本としているが、同姓者の場合は下の名前でも対応している。入浴支援で同性介助の要望があれば対応している。管理者やリーダーは職員の言葉や声掛けで気になる時は、人生の先輩である事を忘れずに対応するよう指導している。	居室を含め入室時はノックの徹底が必要と思われる。申し送り時などで改めて周知の機会をもたれることを期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	スタッフの方から積極的にコミュニケーションを図り話しやすい環境づくりを行っている。また、わかりやすい質問で自分で決める事が出来るよう支援している。表現が難しい利用者に関しては職員間で情報の共有を図りご本人の望みに近づける様努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の意向を確認し出来るだけ意向に添いペースに合わせた支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時や休息後の整容を行っている。散髪や毛染めなど定期的に行うようにしている。洋服の着回しにならないように更衣の際は服にも注意をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	なごみで調理を行わない為準備は一緒に出来ないが、食器の片づけを一緒に行っている。食事の好みに関しては栄養士と意見を伝え改善できるように依頼しているが、現状改善は難しい状況である。	ご飯とお粥のみホームで準備し、主菜・副菜、汁物などは系列施設で調理されたものを受け取りに出ている。法人内の給食会議で要望などを伝えているが、ホーム内調理ように速やかな改善は難しく、減塩(汁物を薄めにする)など対応出来る事を行っている。入居者の好みは給食会議で伝え、献立に組み入れてもらうよう依頼している。職員1名が検食簿に記入しており、今後も職員の気づきなどを厨房にあげていきたいとしている。	食事は入居者にとって楽しみであり、献立や味など率直な感想を話される方もおられるようである。今後は定期的にクッキングの日を設け、ホーム内調理ならではの音や匂いを楽しめることも良いと思われる。また、汁物があつた方が喉越しも良く入居者の食も進むと思われる献立も見られた。入居者の代弁者として委員会での提言が期待される。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が作成するメニューの為栄養バランスに関しては管理出来ている。食事量や食べ方の把握を行い変更が必要であれば変更している。水分量も1日分をチェックし少ない方には好みの物を提供し出来るだけ摂って頂くよう工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後自分でできる方には声かけをし介入が必要な方には口腔ケアを行っている。義歯の消毒も定期的に行っている。ご本人の訴えや必要に応じて協力歯科医院に依頼し診て頂いている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を使用し個々の排泄のパターンを把握しトイレへの声かけを行っている。一人ひとりの残存機能に合わせ誘導の際は出来ない部分の支援も行っている。	排泄チェック表で把握したパターンを活用し、声掛けを行っている。日中はトイレを使用しリハビリパンツで過ごされている。夜間はトイレやオムツで就寝される方もられる。オムツを使用されていてもトイレでの排泄を希望される場合は、職員2名で支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給に心がけ乳酸菌飲料を提供している。体操の実施や食事形態の見直しも行っている。また、主治医と相談し下剤の調整も行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	機械浴での入浴を行い今までシャワー浴だけの方が湯船につかることが出来る様になった。入浴の日程は決めているが利用者の希望で変更を行うっている。	週2回の入浴を基本としているが、週1回になった場合は清拭での対応が行われている。拒否をされる時には本人の気持ちを尊重し、翌日に変更している。現在機械浴が備わった花ユニットの浴槽を全員が使用しており、お隣さんとしての交流の機会にも繋がっている。冬場は特に浴室、脱衣所をしっかりと温めることで拒否にもつながらないようにしている。季節湯で使用する菖蒲や柚子は差し入れも活用し、数日間楽しんでいる。色や香りを楽しめるよう入浴剤も使用しているが、好まれない方には控えている。	入浴後などの水分補給にはお茶に加え、生姜湯やアップルティー、スポーツ飲料など季節や好みに応じて準備している。今後も清潔保持と共に入居者の楽しみとなる入浴支援の継続に期待したい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室の室温調整や寝具調整を行い入眠支援に努めている。湯たんぽも必要な方に使用している。日中休息が必要な方は声かけし本人の希望で休んで頂いている。不眠が続く場合はかかりつけ医に相談している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者が服用している薬の目的や副作用などに関しては理解できている。利用者の状態を観察し不要と思う内服薬については主治医と相談しながら過剰服薬にならない様努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器洗い、洗濯物干しや畳など個々に合った役割を行っている。催事やレクへの参加を楽しんで頂き気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節を楽しめる様に天候を見ながらドライブを行ったり施設周辺の散策を行うよう務めている。	ホーム周辺の散歩や散策は今年度も可能な限り取り組んでいる。感染症への対応から回数は少ないが季節のドライブは少しずつ再開されている。以前のように墓参や外泊など家族の協力を得た外出支援は難しかったと思われるがこの正月感染症対策を施し、3泊帰省し初詣や正月料理を楽しみ帰園された入居者もおられる。	今後は法人の機能(車両や法人訪問など)を生かしたドライブなど外出の幅を広げる事が出来ればと語っている。実現が期待される。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望があれば買い物支援を行うが現在ではスタッフに頼まれる事が多い。認知症の為「お金がなくなった」と訴える方もいるので基本、現金を持たせていません。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があればこちらから電話をかけお話ができるように支援します。ご自分で携帯電話を持たれている方もおられ支援する事もあります。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じて頂けるよう壁面に飾りつけを行っている。共有空間、居室など室温管理も行い居心地よく過ごしていただいています。	木材を生かした造りは入居者にとって落ち着いた空間となっており、それぞれのユニットでは入居者と職員と一緒に作成した季節ごとの壁面などを掲示している。換気を徹底しながら室温管理は、入居者の表情も見ながら調整している。食事やレクリエーション時など席の配置は相性なども考慮する他、現在も感染症への対応から対面は避けて着席してもらっている。また、リビング内に限らず、玄関先や中庭なども活用しながら、個々に応じた居場所作りに努めている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者一人ひとり好みの場所がありその場所で過ごす事が出来るよう配慮しています。気の合う方と過ごせるように環境づくりに配慮しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使用されていたもので愛着のある物は持ってきていただくようご家族に声かけを行っています。	本人にとって愛着のある品や必要な物品の持ち込みを依頼しており、櫛や時計などの小物や家族の写真などの他、収納用の衣装ケースなどが持ち込まれている。衣類の収納には以前使用されていた方の木製タンスも家族の了承のもと活用されている部屋も見られた。衣替えは現在、職員が中心に行っており、不足があれば伝えている。遠方の家族は衣替えの協力が難しく、季節外の品(寝具・衣類)はクロゼットで保管している。	ホームは寒い地域であり必要な方には冬場、湯たんぽを準備して気持ちよく就寝できるよう支援している。今後も一人ひとりの入居者に応じて、居心地よく過ごせる居室環境に努めていかれる事を期待したい。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	家具の配置など利用者様に合わせた配置を心がけ転倒予防にも繋がる様工夫しています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4392700235
法人名	社会福祉法人 小国町社会福祉協議会
事業所名	グループホームなごみ (木ユニット)
所在地	熊本県阿蘇郡小国町宮原425-8
自己評価作成日	令和6年1月25日
評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/43
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205
訪問調査日	令和6年3月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気の利用者様が落ち着いて過ごす事が出来ゆっくりとした時間が流れている。利用者様の状況にスタッフが合わせ出来ないところを補い必要以上のケアを行わず、ご利用者様の残存能力に合わせたケアの提供を行うよう心掛けています。小国郷の地域密着型施設なので利用者様、ご家族、スタッフと顔見知りの事が多く話しやすい関係が出来ている。普段から職員も積極的に話しかけ信頼関係を築きご家族のいろいろな思いや不安など聞くことが出来ている。不安に対しては早期に解決できるように心がけ「なごみ」に入所できて良かったと思っていただけるよう努力しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ユニットでリーダーを選出し理念の見直しを図っている。簡潔にわかりやすくすることで理念の共有が図れるようにしたい。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナが5類に移行しているが利用者様が高齢でもある為催し物には参加出来ていない。今後の状況を見ながら検討していきたい。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	キャラバンメイトとして活動しており今年度は小中学校での養成講座開催に参加した。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設の取り組みや動きについて報告する他、施設としての課題なども議題に取り上げサービスの向上に活かせるよう心掛けた。参加のないご家族への報告が出来るよう今後はしたいと思います。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議への参加依頼や、いろんな情報についてメール等で知らせて頂いている。話しやすい関係を作っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化委員会を中心に身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいます。センサーマットについても都度話し合いを行っている。今後は高齢福祉課でまとまった研修会が出来るよう話し合いをする予定になっている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止に関してもユニットリーダー・身体拘束委員会のメンバーと共同で毎月のケア会議の際話し合いや行動、言動の振り返りを行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	県が定める施設長等権利擁護推進研修へ参加、また熊本県地域密着型サービス連絡協議会阿蘇ブロック開催の権利擁護研修会に2名参加し少しでも理解できるように努めた。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、または改定等の際は料金体系や加算の内容について文章や口頭で説明している。負担が生じる際も事前に説明し不安や疑問点についてを行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議での家族代表より意見を頂戴したり、面会の際意見や要望を聞くようにしている。年明けには職員紹介のなごみ新聞を作成しご家族との顔の見える関係の構築を図っている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回程度、高齢福祉課(4施設)の管理者と経営コンサルタントを交えて、運営状況や問題点等を確認し合い経営改善のための情報収集経理を行っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の人事評価と必要場合は面談を行い管理者や職員個々の勤務状況や職場環境、メンタル面の把握を行い各自が働きやすい環境になるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ケア会議等に参加し、意見を聞くことにより職員の力量等を把握する事が出来る。又、年間計画で法人全体で実施している研修会に参加し、スキルアップを図っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	小国郷医療福祉あんしんネットワークによる小国郷の同業者と意見交換等を行いサービスの質の向上に取り組んでいる。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所の際に不安な事はないかコミュニケーションを図りながら解決できるように努めている。また、ご家族からの情報を聞き入れることで自分で訴えることができない方の不安や要望を聞き入れ安心の確保に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談時から家族の立場に立って接するように心がけ、家族の思いを十分に聞き要望を伝えやすい関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所時に本人や家族の要望を聴き必要としている支援について担当者・ケアマネ・ユニット職員で情報を共有しサービスの提供を行っている。また、ケア会議でサービスが充足しているか検討を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の個々の能力が発揮できるように洗濯物を干したり畳んだり、レクリエーション活動を一緒に楽しみながら生活できるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会制限が続く中ご家族からの希望があれば面会を行っている。面会が出来ないご家族には電話での対応も行っています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの美容室にお連れし関係が継続できるよう努めています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや催事を通してお互いが興味を持ってもらえるように声掛けを行ったり孤立しない様スタッフが常に見守り声掛けを行っています。トラブル回避の為スタッフが介入し関係性を保てるように努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの利用が終了した後も、相談や支援に応じる姿勢を示しながら経過を見ています。必要に応じてお尋ねすることもあります。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	積極的にコミュニケーションを図り思いを伝えやすい環境をつくりご本人の思いや暮らし方の意向を把握するように努めています。思いを伝えられない方は担当者やケアマネを中心に昔の生活環境やなごみでの生活の状況を見ながら話し合いを行っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族との関係を維持し利用者の生活歴や暮らし方などわからない事を聞き取れるようにしています。前ケアマネや利用していたサービス事業所からも情報を収集出来る様に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の健康チェックを行うことで状態の把握に努めたり、常にスタッフ間で情報の共有が出来るよう申し送りの際も話し合い把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネが担当者やケアスタッフ全員と課題やケアのあり方について話し合い意見交換を行っている。ご家族からの思いも聴き介護計画に反映出来るよう努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常生活の状況や催事での行動・表現の記録を行い、普段と違う行動や表情が見られた時は記録を残すと共に申し送りやノートを活用し情報の共有を図っている。介護計画の見直しにも役立っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	新型コロナウイルスが5類感染症へ移行したが自由が利かない状況は変わらない。その時のニーズに対応出来るよう支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナウイルスが5類感染症へ移行したが施設内ではいまだに厳しい状況であり地域資源との協働は出来なかった。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医だけでなく、ご家族と相談し状態に応じ、ご本人やご家族の希望の医師による医療を受けるなど選択できるように支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常に職場内の看護師と利用者の健康について意見交換を行っている。週1回の訪問看護には利用者の日々の状況を報告し必要に応じて相談も行ったり、臨時での通院の際のスムーズな受診に向けての支援してもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	訪問看護を通して入院中の利用者の状況を把握したり、地域連携室のSWと連絡を取り退院の状況把握に努めている。主治医との関係も出来つつあり早期に退院できる様相談も行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重症化や終末期のあり方については現在事業所で出来る事をその都度ご家族に説明を行っています。また「急変時の医療行為の希望」を再度ご家族へ確認し家族の意向の把握を行いました。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時の対応マニュアルを作成し周知出来ているが、不安を感じる職員もいる為、その都度対応する必要がある。日々の申し送りの際など話し合いを行うこともある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を年2回実施し今年は夜間を想定した避難訓練を実施し消防隊や地元の消防団の方からの意見を聞いたり、スタッフからの感想を出してもらいまとめ改善出来る部分はすぐ改善を行いました。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねないような声かけを行うように努めている。入浴は同性対応を行うこともある。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	スタッフから積極的にコミュニケーションを図り話しやすい環境づくりを行っている。また、わかりやすい質問で自分で決める事が出来るよう支援している。表現が難しい利用者に関しては職員間で情報の共有を図りご本人の望みに近づける様努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の意向を確認し出来るだけ意向に添いペースに合わせた支援を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時や休息後の整容を行っている。散髪も毛染めなど定期的に行うようにしている。洋服の着回しにならないように更衣の際は服にも注意している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	なごみで調理を行わない為準備は一緒に出来ないが、食器の片づけと一緒にしている。食事の好みに関しては栄養士へ状況を伝え改善できるように依頼しているが、現状改善は難しい状況である。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が作成するメニューの為栄養バランスに関しては管理出来ている。食事量や食べ方の把握を行い変更が必要であれば変更している。水分量も1日分をチェック少ない方には好みの物を提供し出来るだけ摂って頂くよう工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声かけを行い必要に応じて介入している。義歯の消毒も定期的に行っている。口腔内に何らかの問題があれば協力歯科医院に依頼し診て頂いている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を使用し個々の排泄のパターンを把握しトイレへの声かけを行っている。一人ひとりの残存機能に合わせ誘導の際は出来ない部分での支援も行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給に心がけ乳酸菌飲料を提供している。体操の実施や食事の形態などの見直しも行っている。また、主治医と相談し下剤の調整も行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	機械浴での入浴を行い今までシャワー浴だけの人が湯船につかることができる様になった。入浴の曜日は決めているが利用者の希望で曜日の変更を行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室の室温調整や寝具調整を行い入眠支援に努めている。現在も湯たんぽは使用している。日中はご自分で休まれる方いたので室温調整には気をつけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者が服用している薬の目的や副作用などに関しては理解できている。また、新しく内服開始すればスタッフ間で情報を共有し観察を行い次回の受診に役立てられるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器洗い、洗濯物干しや畳など個々に合った役割を行っている。催事やレクへの参加を楽しんで頂き気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節を楽しめる様に天候を見ながらドライブを行ったり施設周辺の散策を行うよう務めている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望があれば買い物支援を行うが現在はスタッフに頼まれる事が多い。認知症の為「お金がなくなった」と訴える方もいるので基本、現金を持たせていません。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があればこちらから電話をかけお話が出来る様に支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じて頂けるよう壁面に飾りつけを行っている。共有空間の室温管理も行い過ぎしやすい空間づくりをしています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う方と過ごせるように環境に配慮したり、独りになれるような空間づくりにも努めています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使用されていたもので愛着のある者は持ってきていただくようにご家族へ声かけを行っています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	家具の配置など利用者様に合わせた配置を心がけ転倒予防にも繋がるよう工夫しています。		